富 監 第 ９ ２ 号
令和６年１１月２８日

富田林市喜志財産区管理者
　富田林市長　吉村　善美　様

富田林市監査委員
中川　　元
花岡　秀行
伊東　寛光

令和５年度富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第２３３条第２項の規定により審査に付された、令和５年度富田林市喜志財産区特別会計歳入歳出決算（歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書）及びその他付属書類について審査した結果、次のとおり意見を提出する。

令和５年度 富田林市喜志財産区特別会計決算審査意見

第１　審査の対象

令和５年度　富田林市喜志財産区特別会計決算

第２　審査の期間

令和６年９月３日から令和６年９月２７日

第３　審査の方法

審査にあたっては、市長から提出された歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書が地方自治法及び関係法令の規定にしたがって作成されているか、また、決算計数が正確であるか等を確認するため関係諸帳簿及び証拠書類を照合し、併せて予算の執行が適正かつ効果的に行われているかどうかを主眼として実施した。

第４　審査の結果

審査に付された令和５年度の歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、地方自治法その他関係法令に準拠して作成され、決算の計数も関係諸帳簿、証拠書類と符合し正確であり、本年度の決算を適正に表示していることを認めた。

第５　決算総括

喜志財産区特別会計歳入決算額は 8,415,944 円、歳出決算額は 8,415,944 円で歳入歳出差引額は 0 円である。

歳入では使用料及び手数料及び財産収入、繰入金が、歳出では総務費がそれぞれ減少しており、主な要因は歳入では粟ケ池仮線路用地等の賃貸借料差額請求分の減、歳出では辰池擁壁補強事業の終了に伴う負担金補助及び交付金の減によるものである。

前年度に比べ歳入・歳出ともにそれぞれ 970,596 円（10.3％）の減少となった。

公有財産においては、令和５年度中の増減はなかった。

基金については、昨年度に比べ取り崩し額は減少しているが、取り崩し額が積立額を上回っており、781,000 円減少していることから、健全な財産区運営を念頭に、今後も基金の計画的な活用に努められたい。

喜志財産区は所有する財産の管理等について、今後も引き続き地方自治法第２９６条の５第１項の主旨に則り、財産区住民の福祉の増進を図るとともに、

市との一体性を損なうことのないよう努められたい。また、財産区財産について、常に良好な状態を維持すべく適切にこれを管理し、その目的に応じた最も効果的な財産区事業の運営に取り組まれることを望むものである。

第６　収支状況

１　歳入

決算額は8,415,944円で、前年度（9,386,540円）と比較すると970,596円の減少となり、予算現額に対する収入率は45.9％である。各款別における歳入の状況は［表1］のとおりである。

〔表 1〕　（単位:千円・％）

区　分	5年度			4年度	増　減	増減率
	予算現額	決算額	収入率	決算額		
使用料及び手数料	5	4	80.2	7	△ 3	-42.9
財産収入	3,814	3,813	100.0	4,211	△ 398	-9.5
繰入金	14,510	4,599	31.7	5,169	△ 570	-11.0
繰越金	0	0	0.0	0	0	-
諸収入	1	0	0.0	0	0	-
計	18,330	8,416	45.9	9,387	△ 971	-10.3

財産収入が39万8千円の減となった。これは財産貸付収入の減によるものである。

２　歳出

決算額は8,415,944円で、前年度（9,386,540円）と比較すると970,596円の減少となり、予算現額に対する執行率は45.9％である。各項別における歳出の状況は［表2］のとおりである。

〔表 2〕　（単位:千円・％）

区　分	5年度			4年度	増　減	増減率
	予算現額	決算額	執行率	決算額		
議会費	1,153	1,064	92.3	960	104	10.8
総務費	16,877	7,352	43.6	8,427	△ 1,075	-12.8
予備費	300	0	0.0	0	0	-
計	18,330	8,416	45.9	9,387	△ 971	-10.3

総務費が107万5千円の減となった。これは選挙費が皆増しているものの、財産管理にかかる事業負担金の減少や、財産区財産売払収入による積立金40万円が減少したことなどによるものである。

第７　財産に関する調書

１　公有財産

(1)　土地

５年度末現在高は 117,566.9 ㎡であり、５年度中の増減はなかった。

(2)　建物

５年度末現在高は 325 ㎡であり、５年度中の増減はなかった。

２　備品

５年度末現在高は 0 台であり、５年度中の増減はなかった。

３　基金

年度当初の現在高は 3,894 万円で、５年度は積立金 381 万 7 千円であったが、取崩額が 459 万 8 千円あったことにより、年度中で 78 万 1 千円の減となり、５年度末残高は 3,815 万 9 千円であった。